晴耕雨読

デイサービスケアスタ中町の広報誌

[Seiko-udoku]
2023年9月 vol.55

CARE★STA

ハロウィンカボチャができました!

春から育てていたハロウィンカボチャを収穫しました。今年は3か所の児童クラブにプレゼントしています。余ったカボチャはデイサービスの看板前にかざりました。

▼薪ストーブで焼き芋

紅はるかを薪ストーブで焼き芋にしました。甘くねっとりした食感が好評でした。

▼ひょうたんの収穫

千成ひょうたんが沢山できたので、収穫しました。底に穴を開けて種取りをしています。

twitter
carestanakamach

Facebook
caresta.day

instagram
care.sta

晴耕雨読

デイサービスケアスタ中町の広報誌

［ Seiko-udoku ］

2023年9月 vol.55

CARE★STA

作業療法士監修

一軒家“まるごと”生活リハビリ型デイサービス

生活リハビリとは？

ご自宅やデイサービスで、ご自分がしたいこと、できることを見つけ出し、生活動作として毎日繰り返すことで、身体的機能と認知機能の維持・向上を図ります。

テーブルを拭く、ご飯をよそう、配膳を手伝う、衣服の着脱を自身で行うなど、生活のなかのあらゆる場面で、ご利用者様が現在できることは可能な限りご自身で行っていただきます。また、少しだけ頑張っていただく選択プログラムもご用意しております。そのことが、生活の質の維持・向上につながると考えるからです。

さらに、ケアスタ中町では、お一人おひとりのご利用者の心に潜んでいる「してみたいこと」をご一緒に探し出し、そのことが実現できるようにサポートいたします。

☑様々なプログラムがありますので、集団になじめない方でも対応できます。また、これまでの生活習慣を変えないように、料理や掃除、社会参加プログラムもご用意しております。

「なじみの作業記憶」を活用

認知症の人は、なじみのない行動は苦手です。目的や手順を説明されても理解が難しかったり、忘れてしまったりして、混乱・困惑し、時にはやらされていることへの怒りを感じることもあるでしょう。

一方、積み重ねてきた作業を体が覚えていることがあります。認知症の人は、そうした「体で覚えたこと」「なじみの作業」は、失われにくい傾向があり、生活リハビリではまさにその人のなじみの作業を行います。慣れた行動、わかりやすい目的のため、前述のような感情にとらわれずにすみます。

20種類以上の選択プログラム

認知症の人は、なじみの、生パン作り、バイキング、コーヒー焙煎、ノルディックウォーキングなど、紙面上では紹介しきれないプログラムを多数ご用意しております。それぞれのプログラムに目的と効果を設定して、プログラムを行う事で日常生活動作の訓練を楽しみながら行う事ができます。

▼パン作り

▼薪割り・ご飯炊き

▼料理

▼畑・園芸

これまでの介護の課題

認知症や要介護になると、いろいろなことを制限されて、やってもらうことが当たり前になってきます。“何かあっては困る”と活動するリスクは全て排除されてしまいます。これは、本当に望んだ姿なのでしょうか、ただ安全にいきるためだったら、部屋にいてじっとしているしかありません。

しかし、出来ることもあるのです！

支えられる側から支える側へ

●できないことを“してあげる”のは、単なる【お世話】

●できることに焦点を当てて、その人らしく暮らせるようにするのが【介護】

年をとって、体が弱ってくると、受け身になり自分から動くことが少なくなります。そして、支えられることへの申し訳なさや自分の役割がなくなった喪失感で、自尊心が削られていきます。その回復のために、利用者ができることで、地域社会とのつながりや、役割を取り戻そうと考えています。

●ケアスタ中町の3種類の活動

①家や施設などの自分が所属している場所の役に立つ活動

②地域社会や人の役に立つ活動

③対価を得られる活動

ご利用に関するご相談はLINE

またはお電話でお問合せ下さい！

☎0228-24-8456